

Robert M. Zollinger, Jr./E. Christopher Ellison (著)
安達洋祐 (訳)

ゾリンジャー外科手術アトラス

中川国利

仙台赤十字病院副院長/東北大学臨床教授・外科

私の本棚に古ぼけた“Zollinger's Atlas of Surgical Operations”がある。最後のページには1976年10月5日購入と記載されている。私が研修医時代に、薄給にもかかわらず大枚をはたいて買い求めた最初の本にして現在も愛読している本である。そして当時の指導医から強く薦められ、先輩研修医も持っていた憧れの本でもあった。

外科医は主に消化器疾患を対象とし、専門分野は消化管と肝胆膵に大きく分かれ、さらに消化管は上部消化管と下部消化管に、肝胆膵は肝臓、胆嚢、膵臓に細分化されている。しかし、研修医は基本的には人間全てを対象として臨床を学ぶ必要がある。また私の専門は消化器外科であるが、研修医時代に「頭からつま先まで」全ての外科的疾患を経験したことが日常臨床では大いに役に立っている。“Zollinger's Atlas of Surgical Operations”は消化管や肝胆膵ばかりではなく、血管外科、婦人科、甲状腺、乳腺、ヘルニア、さらには腱縫合や皮膚移植まで記載されており、外科全体を網羅する手術書である。

現在、手術書はカラー表示は当然のこと、DVDによる動画まで付けられて販売されている。しかし、私が研修医時代の手術書は文章表記が主体で、図が少なく理解することがはなはだ困難であった。一方、“Zollinger's Atlas of Surgical Operations”は右ページには各手術における要点を的確な線画で手順を追っ

て記載していた。また標準術式ばかりではなく、症例に応じた術式を行えるように他の術式も列記していた。さらに左ページには手術方法に加えて、適応、術前準備、麻酔、体位、術後管理までを的確に解説していた。研修医の私は手術の直前にアトラスを見ながら、手術のシミュレーションを何度も繰り返したものである。そしてアトラスを参照して手術所見を記載し、さらに術後にアトラスを精読しながら手術を反省した。

外科手術の進歩と共に版を重ねる“Zollinger's Atlas of Surgical Operations”が、2011年に内容をさらに充実させて第9版が出版された。第9版には最新の腹腔鏡下手術や自動縫合器を使用した手術などが追記され、イラストもすべてカラー表示され大変読みやすくなった。この実績と伝統ある名著を安達洋祐さん（「先生」と敬称されることを嫌われるため、あえて「さん」とします）が1人で翻訳され、『ゾリンジャー外科手術アトラス』として出版された。

安達さんは『外科の「常識」—素朴な疑問50』（医学書院）、『最新エビデンスに基づく乳がん診療ガイド』（金原出版）、『消化器外科のエビデンス—気になるテーマ30』（医学書院）など、外科医に愛読されている名著を世に送り続けている。これは安達さん自身が優れた臨床外科医であるとともに、常日頃から膨大な医学雑誌を熟読し、最新の医学知識を取り入れているからこそでき

る偉業である。『ゾリンジャー外科手術アトラス』では読者に理解しやすい文章に翻訳するとともに、随所に適切な訳注をつけて原著の内容をさらに充実させている。一例を挙げると、虫垂切除では「訳注：手術せずに抗生物質で治して虫垂切除も行わないことがある」と記載してある。さらに詳細なエビデンスを知りたい読者は、安達さんの名著『消化器外科のエビデンス—気になる30誌から（第2版）』（医学書院）を参照すると明解となる。

安達さんは若き医師や看護師の教育に情熱を燃やし続ける「教え魔」である。原著でしか読むことができなかった名著が、安達さんによって読みやすく日本語に翻訳された。しかも値段はなぜか原著に比べて格段に安く、買い求めやすい価格に設定されている。手術を行う際には慣れた術式でも、解剖書に目を通すことが大切である。さらに手術書を読むと、新しいヒントが得られるものである。外科手術全体を網羅した『ゾリンジャー外科手術アトラス』は、平易で示唆に富む手術書である。外科医を志す初期・後期研修医は勿論のこと、熟練の指導医にもぜひ推薦したい必携の書である。

●A4/頁520/2013年/定価15,750円
(本体15,000円+税5%)

[ISBN978-4-260-01714-5]

医学書院 刊